

提 案 の 概 要

施設名： 名古屋市瑞穂福祉会館・児童館

団体名： 名古屋市瑞穂区社会福祉協議会

1 福祉会館業務

(1) 管理運営全般について

① 施設管理運営の基本方針等

地域で生活する高齢者の居場所・たまり場として仲間づくりの拠点となり、健康でいきいきとした人生をおくるための支援を行うため、次の方針で会館運営を行います。

- 1 利用者が通い続けたい魅力ある事業を実施するとともに、居心地のよい環境をつくります。
- 2 常に職員が高齢者福祉の研さんに努め、質が高く真摯なサービス提供にこころがけます。
- 3 児童館との併設を活かし、子どもたちとの交流を深めるとともに、施設の有効利用を図ります。

② 管理運営体制（職員配置及び人材の確保・育成計画等）

<職員配置> 経験と熱意があり、必要なスキルを身に着けた職員を配置します。

館長－事務職員（1人）、健康支援スタッフ（1人）、生きがい支援スタッフ（1人）

<人材の確保・育成計画等>

- 1 名古屋市社会福祉協議会が広く人材募集を行い一括採用・研修を行うことで、質の高い・専門性のある職員を安定確保します。
- 2 本会と名古屋市社会福祉協議会と協力し職員研修・情報交換等を行い、この中でお互い切磋琢磨するとともに、専門性を向上させます。

(2) 事業運営の実施計画について

① 生活相談及び健康相談

- 1 定期的に「健康相談日」「生活・介護相談日」を設け、区医師会・歯科医師会・保健所・いきいき支援センターの協力のもと、個別相談を行います。
- 2 来館者を対象に、季節や社会情勢を踏まえた話題をテーマに「ミニ健康講話」「ミニ生活講話」を開催します。

② 教養の向上及びレクリエーション等に関する事業

- 1 高齢者の元気生活を支援するため、陶芸・手芸・茶道・書道・民踊・民謡・詩吟・囲碁・将棋など多様なジャンルの講座を開催します。
- 2 利用者始め、地域住民のニーズに対応した魅力あるイベント等を開催します。
 - (1) 警察署・消防署・地域の団体等本会のネットワークを活用し、防犯・防災等日常生活に必要なテーマや、「終活」・「老後の楽しみ方」等、高齢者に魅力あるテーマの講座を開催します。
 - (2) 桜の名所「山崎川」のほとりに位置する会館の特徴を活かし、お花見コンサートや季節を感じさせるイベントを児童館との共催で実施します。

③ 機能回復訓練の実施

- 1 専門家を講師として機能訓練講座を開催し、日常的に身体的機能を保つための実践方法を学びます。
また、ヨガ・太極拳等健康維持を目的とした、同好会活動を支援します。
- 2 認知症予防を「機能維持」と位置付け、回想法を活用した「懐かしの歌をうたう会」「茶話会付き映画会」、子どもたちとの「伝承あそび」などを実施します。

④ その他事業

- 1 健康づくり
 - (1) 「健康寿命を延ばそう！」をテーマに、保健所・いきいき支援センター等の専門職の協力を得て、健康まつりを開催します。
 - (2) 運動の専門家を講師として、健康体操講座等実践型講座を開催し、運動習慣を身につけるとともに、健康へのアドバイスを行います。
- 2 仲間づくり・憩いの場
 - (1) 比較的利用の少ない午前中の囲碁・将棋室を利用し「金曜サロン」を開設することで、仲間づくり、憩いの場を提供します。
 - (2) 会館を拠点に活動する同好会や一般利用者が、地域で積極的にボランティア活動を行う支援を行い、社会参画を促します。
- 3 その他
地域の生涯学習センター・名古屋女子大学等と連携し、魅力ある講座や児童館との交流事業を企画・実施します。

2 児童館業務

(1) 管理運営全般について

① 施設管理運営の基本方針等

次代を担う子どもたちが社会性・自主性・創造性などを身につけるとともに、子育て家庭が安心して子育てできる支援を行うため、次の方針で会館運営を行います。

- 1 より多くの人に利用してもらえるよう、対象年齢や内容・目的を考慮した事業運営を行います。
- 2 常に児童福祉の研さんに努め、質が高く地域や保護者等のニーズを踏まえたサービス提供をします。
- 3 福社会館との併設を活かし、高齢者との世代間交流事業を行うとともに、施設の有効利用を図ります。

② 管理運営体制（職員配置及び人材の確保・育成計画等）

<職員配置> 経験と熱意があり必要なスキルを身に着けた職員を配置します。

館長－事務職員(1人)、児童の遊びを指導する者(2人)、留守家庭児童クラブ支援員(2人)

<人材の確保・育成等>

- 1 名古屋市社会福祉協議会が広く人材募集を行い一括採用・研修を行うことで、質の高い・専門性のある職員を安定確保します。
- 2 本会と名古屋市社会福祉協議会と協力し職員研修・情報交換等を行い、この中でお互い切磋琢磨するとともに、専門性を向上させます。

(2) 事業運営の実施計画について

① 子ども育成活動

- 1 子どもたちが常に自由に遊べる場を提供し、せいさくラボやカプラ教室を通して創造性を育みます。また、こどものまちや児童館まつりを、子どもたちの発想を活かした内容にすることで自主性を発揮できるイベントにします。
- 2 福社会館の利用者を講師やボランティアとして、「陶芸教室」・「将棋クラブ」などを実施します。また、季節のまつりや伝承遊びなどを高齢者と一緒に行うことで、世代間交流を深めます。
- 3 中高生の居場所づくりを、毎週木曜日の閉館後に実施し、その内容については、中高生と共に考えながら運営します。
- 4 区社会福祉協議会が運営する児童館が中心となって、日頃の活動の中で把握した、子育て家庭の孤立化や児童虐待などの社会的な課題をテーマにシンポジウムを開催し、今の児童館に求められる役割を発信します。

② 子育て支援活動

- 1 名古屋女子大学との共催も含め、「スターペアレンティング」「マザリーズ」など、子どもの育て方を学習する体験型講座を開催し、閉じこもりや虐待防止につなげます。
- 2 「キッズわんぱーく」「ベビーマッサージ」「お父さんと遊ぼう」など、子どもとの遊びを学びます。
- 3 「親子体操」「親子の工作教室」など、子どもの年齢に応じたクラブ活動を実施し、親同士が交流できる機会をつくります。
- 4 区内の子育て支援ネットワークに参画し、情報交換を行うとともに、協力して子育て支援活動を行います。
- 5 ホームページを刷新し、児童館の行事などとともに、子育て情報をきめ細かく発信します。

③ 地域福祉促進活動

- 1 近隣の名古屋女子大学との共催により、ものづくりや調理実習等を実施し、異年齢の交流をはかります。また、生涯学習センターが行う子育て事業などに参加し、地域で子どもを育てる・見守る環境をつくります。
- 2 地域住民やキッズボランティアなどの協力のもと、「児童館まつり」・「食育まつり」を地域開放イベントとして実施し、地域福祉に貢献します。
- 3 児童館を利用しにくい子育て家庭を支援するため、会館から離れた地域のコミセン等を利用し、「移動児童館」を行います。
- 4 地元の中学校が行う、「職場体験」に協力します。この中では、児童館の事務に止まらず、「子育てグループ教室」「工作教室」などを一緒に行うことで、児童館の役割とともに、将来の仕事の参考にしてもらいます。

④ 留守家庭児童健全育成事業

就労等のため、放課後の監護ができない家庭の小学生を預かる「留守家庭児童クラブ」を実施し、遊びや生活を通して子どもの健全育成を図ります。

この中では、次のことに留意します。

- (1) 学年の違う子どもたちが一緒に過ごすことで、他者への気遣いなど集団生活のルールや社会性を身につけます。
- (2) 学習時間や長期休暇中などの生活リズムを整えるなど、生活習慣を身につけます。
- (3) 遊びの内容やもめごとなどを、子どもたちで話しあえるよう支援します。
- (4) 定期的に保護者会を開催するとともに、連絡ノートを活用した日常的な情報交換により、保護者との信頼関係を築きます。
- (5) 子どもが所属する小学校の学年だよりを入手するなど、学校との連携を図ります。

(3) 収支計画について

①管理運営にかかる費用等

1 人件費

安心・安全かつ安定的な施設運営と、児童館・福社会館の設置目的の達成のためには、人材の定着によるノウハウの蓄積、継続的な育成が欠かせません。本会では、このような視点から、豊富な実務経験や必要な資格を持つ専門職を安定的に確保するのに必要な人件費について、限られた予算の中、経営の効率性を図ることで、前回の申請時と同額を積算しています。

2 物件費

(1) 福社会館業務

多様なジャンルの講座や事業の実施により、前期より利用者数が約17%の増加となりました。これを踏まえて来期は、今期の事業を踏襲しつつ、健康に関するイベントや金曜サロン（仮称）等仲間づくりを推進する新たな事業を展開します。このための費用を必要最小限に積算しました。

また、施設管理費は、実績を踏まえた積算をしています。

(2) 児童館業務

子どもや保護者にとって魅力ある行事・事業の実施により、今期の児童館利用者数は、前期に比べ約16%増加しています。来期の事業は、今期の事業をさらに充実させる内容で実施します。特に、子どもの自主性・創造性を育む事業と、子育て家庭への支援事業を重点に実施します。このための必要最小限の費用を積算するとともに、留守家庭児童クラブ及び学習支援事業について、別途、必要経費を積算しました。

なお、施設管理費は、福社会館と同様、実績を踏まえた積算をしています。

3 収支予算（平成28年度）

(単位:千円)

福 社 会 館	区 分	予算額	備 考	児 童 館	区 分	予算額	備 考
	人件費	23,081	職員4人		人件費	19,900	職員4人
物件費	13,895	管理費 事業費	物件費	9,271	管理費 事業費		
			留守家庭児童 クラブ	4,470	支援員2人		
			中学生の学 習支援事業	1,971			
合 計	36,976		合 計	35,612			